

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等

## 【類型 I】

## 1. 実践校について

実践校名	ながのしりつながのちゅうがっこう 長野市立長野中学校		
学科名	児童・生徒数	学級数	
	210名	6学級	

## 2. 実践研究の対象

- 学年 長野市立長野中学校全校生徒
- 生徒数 1学年…70名, 2学年…70名, 3学年…70名, 計210名
- 学年 1学年…2学級, 2学年…2学級, 3学年…2学級, 計6学級

## 3. 実践研究の実施経過

※○印…実践公開研究授業

	取組内容
4月	第1回研究推進会議(本年度の研究推進について)(13日)
5月	第2回研究推進会議(社会科における研究計画の確認等)(17日)
6月	第3回研究推進会議(校外学習と地域学習との連携について)(9日) 第4回研究推進会議(社会科2年の実践進捗状況の確認等)(22日)
7月	第5回研究推進会議(社会科3年の実践進捗状況の確認等)(14日) ○第2学年「長野市の魅力を発見・発信」(校外学習・社会/英語/総合)(19日) 第6回研究推進会議(1学期の反省)(26日)
8月	文部科学省によるヒアリング(1日) 第7回研究推進会議(2学期の教育内容の確認等)(18日)
9月	第8回研究推進会議(地理的分野・公民的分野実践進捗状況の確認)(16日)
10月	第9回研究推進会議(実践進捗状況の確認)(14日) ○第2学年地理的分野「日本の諸地域(近畿地方)」(19日)
11月	第10回研究推進会議(実践進捗状況の確認と視察に向けて)(1日) ○第2学年地理的分野「日本の諸地域(中国・四国地方)」(17日) 文部科学省による実践校視察(28日) ※研究授業:第3学年社会(公民的分野)「地方自治と私たち～避難所運営を学んできた私たちにできること～」

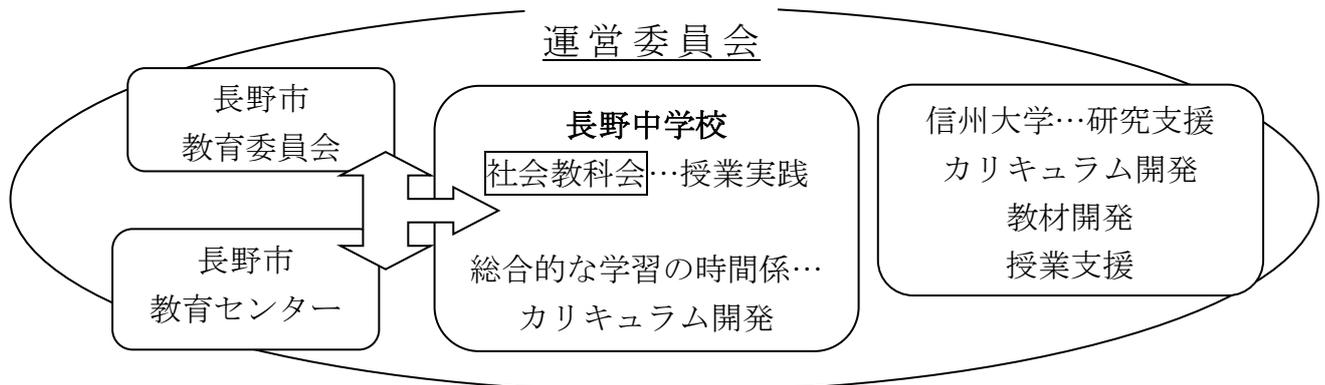
12月	第11回研究推進会議(地理的分野「地域の在り方」に向けて)(6日) 第12回研究推進会議(地成果発表会に向けて)(13日) 第13回研究推進会議(地理的分野「地域の在り方」に向けて)(20日) ○第2学年地理的分野「地域の在り方」(22日)
1月	第14回研究推進会議(探究成果のまとめに向けての確認)(6日) 第15回研究推進会議(探究成果のまとめに向けての確認)(10日) ○第2学年地理的分野「地域の在り方」(13日) 成果発表会[文部科学省](20日)
2月	第16回研究推進会議(研究のまとめに向けて)(21日)

#### 4. 実践研究の実施体制

長野市教育委員会、長野市教育センター、長野市立長野中学校で運営委員会を設置し、教育実践に取り組み、教育学的な支援を信州大学の教員が行った。

本事業においては、社会学習における主権者教育の可能性を探ると同時に、総合的な学習の時間等との教科横断的なカリキュラム開発も試みていることから、長野中学校内においては、「総合的な学習の時間係」との連携もとりながら研究を推進した。

また、学習実践の展開に当たっては、社会の学習については社会係が中心に研究を推進し、外部諸機関との連携調整は副校長を中心に連絡調整を行った。



運営委員会構成員

No.	氏名	所属・役職等
1	菅沼 尚	長野市立長野中学校長
2	千野 布美子	長野市立長野中学校副校長
3	中村 広登	長野市立長野中学校教諭
4	山崎 慎也	長野市立長野中学校教諭
5	勝野 学	長野市教育委員会・教育次長
6	小林 仁志	長野市教育委員会指導主事
7	今井 睦俊	長野市教育センター長
8	両角 宏和	長野市教育センター指導主事
9	小山 茂喜	信州大学・教授(総合人間科学系)[教育方法学]
10	谷塚 光典	信州大学・准教授(教育学系)[教師教育学]
11	荒井英治郎	信州大学・准教授(総合人間科学系)[教育行政学]

## 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

### ① カリキュラム開発に際して、カリキュラム・マネジメントに関する研修支援

長野市教育センターと信州大学と連携事業として開発してきたカリキュラム・マネジメント研修教材を活用しながら、教科研究会等で教科横断的なカリキュラム編成に関わる研修の支援を行った。

具体的には、研修教材「カリキュラム・マネジメントハンドブック」を活用して、カリキュラム・マネジメントでは、どうのことをねらっているのかという基本的な内容の確認から、実際の年間学習指導計画の再検討を行った。

### ② 実践授業における授業支援

- ・地理的分野の「地域調査」と総合的な学習の時間並びに英語学習を組み合わせた第2学年の「長野市の魅力を発見・発信」の学習において、校外学習当日指導主事等による学習支援と大学教員による授業評価を行い授業改善に努めた。
- ・地理的分野の単元「日本の諸地域 中国・四国地方」「日本の諸地域 近畿地方」の授業では、地域の課題発見と課題解決に取り組む学習の在り方について、長野市教育センターの公開研究授業とし、指導主事や大学教員が授業設計や授業評価の支援を行った。同時に、市内の教職員の授業改善やカリキュラム編成の研修の場として設定した。
- ・地理的分野の単元「地域の在り方」の授業では、行政当局と協働で地域の課題を見つけ、地域住民としてどのように関わっていったらよいか探究する学習の在り方を提案することを目的に、長野市教育センターの公開研究授業とし、指導主事や大学教員が授業設計や授業評価の支援を行った。同時に、市内の教職員の授業改善やカリキュラム編成の研修の場として設定した。
- ・公民的分野の単元「地方自治」の授業では、地域の住民自治協議会の人たちと協働で、地域防災の課題と対応策を検討協議し、地域に暮らす一員として、現状の課題を見出し、防災の観点から私たちが何をすべきか、公共施設の扱いをどのようにすべきかを追究する学習について、指導主事や大学教員が授業設計や授業評価の支援を行った。同時に、長野市教育センターの公開研究授業として長野市内の教員に研修の場を設定した。

### ③ 運営委員会の開催

長野市立長野中学校の教育実践の充実を図るための運営委員会を定期的で開催し、研究の進捗状況を確認し研究の充実に努めた。

### ④ 長野市内の教員の研修の場の設定

長野市立長野中学校での実践授業を長野市教育センターの指定研究として、公開研究授業として公開することで、長野市内の教員の研修の場を設定すると共に、研究成果の周知に努めた。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

### 【類型 I】

実践校名：長野市立長野中学校

#### 研究主題

「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した生徒の育成」—地域に根ざし持続可能な社会を目指す社会科学習と「翼プロジェクト」との連続性を探る—

#### 主題設定の理由

令和 3 年度の研究から、カリキュラム・マネジメントとの関係において、教科学習（主として社会科）と総合的な学習の時間との関連に脆弱性が見られ、社会科における地域の在り方を追究する学習において、地域の実態を把握し課題を見出す学習の改善が課題となったことから、本年度は、地域と主体的に関わり、社会で生きる意味や目的を自覚し、社会参画する態度の育成をめざし、地域社会の教育資源を活用した社会科学習におけるカリキュラム開発を行うこととした。

なお、開発プログラムは、社会科学習を核とした教科等横断的なカリキュラムを編成することで、地域社会の課題発見と課題解決のための一連の学習過程を身に付ける学びを通して、主権者として社会を支えていくために必要とされる公民としての資質・能力を育成することを目的としていることから、本研究は、当該学校に限らず他地域での教育実践への参考に大いに役立つものと考えた。

#### 概要

○ 行政や地域住民らと協働で、地域の課題を見出す活動を通じて、自ら社会に参画する態度を育む社会科を中心に学習プログラムを開発する。

#### 学習プログラムの主な内容

- ① 課題を見いだす…「地域調査の手法」【第 2 学年地理的分野：家庭学習：夏休み】  
地域の魅力について「自然，歴史，産業」の観点で調べたり，地域の実態について「災害，高齢化，開発の差」の視点から調べたりすることを通して，自分たちが生活する地域の課題を見いだす。
- ② 課題を追究する…「日本の諸地域」【第 2 学年地理的分野：各 5 時間】  
「日本の諸地域」の学習において，web 会議システム等を活用し学習テーマに即して各地域の人々と交流したり，ネットを活用して地域の実態を知る資料を探す活動を通して，各地域の課題を見だし，解決策を探究する学びを展開することで，主権者として地域に関わる意識を醸成する。

③ 課題解決策を構想する…「地域の在り方」【第2学年地理的分野：7時間】

「長野市第五次総合計画」などを活用しながら、市役所の職員と協働で地域の実態を知る学習を通して地域の課題を見だし、SDGsの11のテーマ「住み続けられるまちづくり」の観点から、課題解決の方策を探り、主権者として地域に関わる意識を醸成する。

④ 解決策を実践・評価する…「地方自治と私たち」【第3学年公民的分野：7時間】

住民自治協議会と協働で、自分たちの学校を避難場所として活用する際の課題と対応法をともに考え、実際に避難計画等を地域に提案することを通して、地域が抱える課題の解決に向けて追究することの意義と、一人一人が地域を支えいくという意識を醸成する。

### 学習プログラムの成果の概要

○ 「地域調査の手法」（第2学年：地理的分野）

夏休みを中心に行った長野市の地域調査では、総合的な学習の時間の学びとも関連付けて課題意識をもたせることができ、地域調査の技能を身に付けるとともに、生徒自身の身近な地域の特色や変化に気付く姿が見られた。

○ 「日本の諸地域（含地域調査の手法）」（第2学年：地理的分野）

日本の諸地域の学習では、たとえば単元「中国・四国地方」の学習では、自らが調査したデータを基に仲間と対話をしたり、web会議システムを活用し中国・四国地方の住民の声に触れたりしたことで、人口減少問題の現状を知り課題解決の難しさと今後地域に課題解決のための議論や行動が必要とされていることに気付くことができた。

○ 「地域の在り方」（第2学年：地理的分野）

市役所企画課の職員と協働で「長野市第五次総合計画」について学び、現状の課題を見だし、これからも長野市に住み続けたいと人々が考えるような長野市の在り方について行政に提案し、評価してもらったことで、主権者として地域に関わる意識が醸成された。

○ 「地方自治と私たち」（第3学年：公民的分野）

住民自治協議会と協働で、自分たちの学校を避難所として想定して防災について考えたことで、地域社会における住民の福祉は、住民の自発的努力によって実現するものであることを、実感をもって理解することができた。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（内容）

## 【類型Ⅰ】

実践校名：長野市立長野中学校

## 学習活動① 地域調査の手法

- 1年時に展開した総合的な学習の時間「善光寺ウォーク」で学んだ地域の歴史や文化を深めたり，1学期後半に展開した総合的な学習の時間「長野市の魅力を発見・発信」で生徒自身が課題とした地域の情報発信の内容を広げたり深めたりすることと，2学期以降の社会科の地理的分野で展開する「日本の諸地域」での学習において自ら課題を見だし目的に応じた課題追究の力を醸成することを目的に，夏休みの課題として長野市の魅力について「魅力：自然，歴史，産業」の観点から，また，長野市が抱える課題について「災害，高齢化，開発の差」の視点から，各自地域調査を行いレポートにまとめることとした。

2年 身近な地域の調査

問い「自分が住んでいるところは昔はどうだったのか」

名前		
自分が調査する地域	上松	
調査した内容、資料①	地附山の歴史	調査した内容、資料②
<p>1.観光地遺構・ロープウェイ山頂駅跡・スキー場跡地：昭和36年堂上殿東側から地附山山頂までロープウェイが架設され、山頂一帯には動物園、スキー場、釣り堀、観光リフト、遊園地等ができ、賑わっていた。しかし、昭和39年「戸隠パードライン」の開通により、地附山一帯は通過点となり、レジャー事業は衰退した。また、昭和50年にはロープウェイも廃業に追い込まれた。これらの施設の一部は今でも見ることが出来る</p> <p>2.1985年7月26日午後5時頃地すべりが発生。地滑りにより、斜面にあった戸隠パードラインは寸断。老人ホーム「松寿荘」の一部建物が押しつぶされ、多数の死者を出した。湯谷小学校が避難場所となった。死者は26人、負傷者は14人。</p>	 	<p>(明治の初め)ほとんど専業農家だった上松の人々は田畑を耕して、自給自足の生活を送っていた。飲料水を確保するのはきわめて重要なことだった。上松は扇状地の扇尖に近い山里だったので地下水が得にくく、共同の井戸水を汲み上げたり、沢の水を生活用水として利用していた。度の家にも水瓶を用意し、汲んできた水を大切に利用していた。</p> <p>(昭和5年頃)上松に水道が敷設され、給水が開始された。山を所有している人が多く、ガスがないころの人々にとって日常使用する燃料として焚き物を得るための場となっていた。</p> <p>(昭和15年)地附山付近はほとんど桑畑だった。その後りんご栽培に転換し、第二次世界大戦後には桑畑がほとんどなくなっていた。</p> <p>(昭和30年頃)宅地化が進んでいった。今では田畑はほとんどない。</p>
<p>まとめ</p> <p>上松では、ロープウェイ等観光のための開発や自然災害等、様々な歴史があり、今もその影響が残っているところや私たちの生活に役立っているものやなくなってしまったものがあった。</p>		
<p>感想</p> <p>上松が意外と歴史深くとても驚きました。自分の住んでいるところの昔の様子や出来事が知れて良かった。</p>		

- レポートにも見られるように、「自分の身近な地域に意外と古い歴史や建物があつたり，今住宅地の所が昔は田んぼということを知って驚いた」「地図を見たら，変化している所がたくさんあった」「気付いたところから問いを立てて深堀りしたい」といった内容が多く見られた。
- 地図やインタビューを通して，自分の身近な地域の変化に生徒たちは気づき，自ら

より深く地域の実態を追究しようという意識が生まれた。

- 日常生活をしている地域について、生徒自身が「知らないことが多い」ということに気付いたことで、地域への愛着を改めて感じるようになったことがうかがえ、地域社会に主体的に参画する意識の醸成になった。

**学習活動② 「日本の諸地域」**

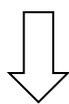
- 夏休み中の地域調査の成果を踏まえて、2学期「日本の諸地域」の学習では、それぞれの地域を追究するテーマ(視点)に則して、それぞれの地域の課題を見だし解決策を構想するという学習を展開した。
- 「日本の諸地域」というと、「他地域のこと」で自分たちの生活とは結びつきのない他人事になってしまう傾向があるので、可能な限り学習している地域の人との交流の機会を取ることで、自分の地域と比較しながら学習が展開できるように心がけた。
- 生徒個々の調査結果や考えたことを逐次 Teams 上に入力していくことで、生徒同士の情報交換がスムーズに展開され、自分の追究で不足していることや、友達の視点のよいところを互いに学び合いながら、学習を深めることができた。



- 学習展開  
◇1時(導入)の学習問題「中国・四国地方ってどんなところだろう？」

**【第1時生徒のまとめ】**

中国四国地方は、中部地方みたい。中国四国地方でも、自然環境が異なり、それによって産業がそれぞれある。

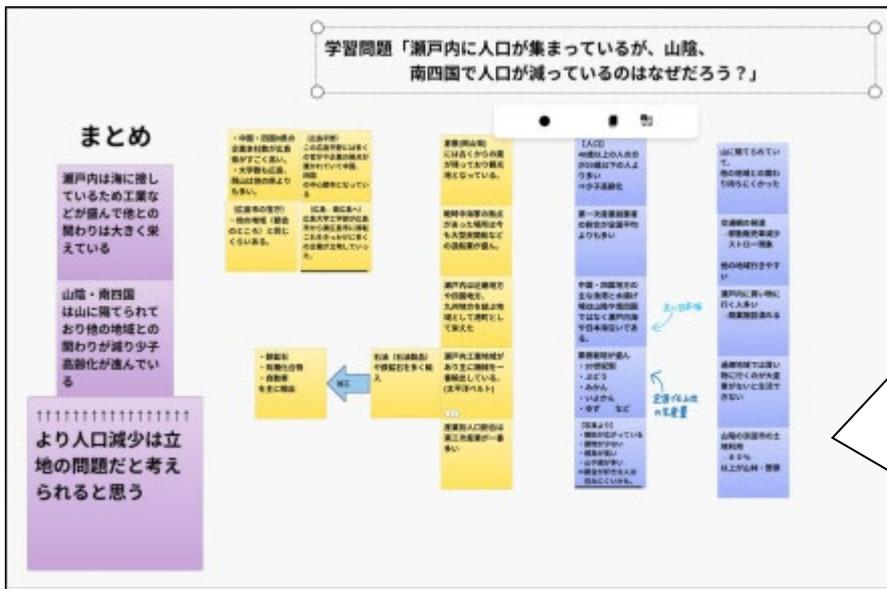


名前	名前
担当	担当
産業・生活・文化	自然環境
砂丘付近でメロン、らっきょう、長芋を育てている。水島コンビナート、化学工業が盛ん。愛媛はタオルの製造が日本一。阿波踊り、よさこい祭り、石見神楽など、まつりも盛ん。沿岸部に人が集まっている。促成栽培や、シジミ漁も盛ん。中国地方は日本海側に面して漁業などの産業が豊富	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海→3つの本州四国連絡橋ある。周辺の気候穏やか。</li> <li>・山脈→中心は山脈、瀬戸内は平野。</li> <li>・「山陰」「瀬戸内」「南四国」に分けられる。</li> <li>・季節風→日本海側&amp;太平洋側影響大きい。</li> <li>・中国山地はなだらか⇔四国山地は険しい</li> <li>・鳥取砂丘→日本最大級の砂丘。観光名所。</li> </ul>
<b>中部地方みたい！気候や地形を生かして、産業に特色あり！</b>	

- ◇単元の学習問題

「人口の偏りや人口減少によって中国・四国地方はどのような地域となっているのだろう？」

◇2時（追究）の学習問題「瀬戸内に人口が集まって、山陰や南四国で人口が減っているのはなぜだろう？」



【第2時生徒のまとめ】

・交通網や都市、産業の発達により、瀬戸内に人が多く、山陰や南四国の人口が少なくなった。

【第2時生徒の感想】

・人口減少が深刻だと思った。何か良い方法はないか？

・ストロー現象は中国四国地方だけに限らないと思った。…これ以上過疎化が進まないためには何かないのだろうか？

◇3時（追究）の学習問題「中国四国地方のまちで、これ以上過疎が進まないためにはどうすればよいのだろうか？」

【第3時生徒の予想】…東北地方のように祭りやイベント・自然を生かす

【第3時生徒の見通し（欲しい資料）】

- ・交通や人口の変化の資料・各地の特産物・山陰や南四国の取組
- ・栄えたり人口増加したりしている地域の取組

◇4時（追究）の学習問題「持続可能な地域となっていくために必要なことは何か」

◇5時（まとめ）の学習問題「中国・四国地方の地域的特色と課題について「人口」や「都市・村落」という視点を中心にしてまとめよう」

- 「中国・四国地方」の学習では、クラスの仲間との対話に加え、地域の課題解決に取り組む複数の当該自治体(町村役場)職員から情報を得たことで、「人を呼び込むために住みやすい環境をつくることと観光としても人を呼びよせて町を知ってもらう工夫の両方が必要」「過疎を止めるには…生活も仕事も一緒にかえる必要があった」と人口減少問題の現状とそれを解決することの現実としての難しさを知り、マンパワーの重要性に肌感覚で気付くことができた。

### 学習活動③ 「地域の在り方」

- これまでの「日本の諸地域」での学びを生かし、SDGs11のテーマである「住み続けられるまちづくりを」に焦点を当てて、地域の在り方を探ることで、地域住民として何をしなければならないのかを地理的分野の学習と考察させたいと考えた。
- 長野市役所企画課から、長野市の総合計画を具現化するためにはどうしたらよいか中学生からも意見を聞きたいという要望があり、行政と協働で学習を展開することが、生徒自らが地域と関わる主権者意識を育むきっかけになると考え、「長野市が今後も住み続けられる地域になるためにはどうすれば良いのだろうか？」というテーマで学習

を展開することとした。

○学習展開

長野市役所企画課からの「長野市が、住み続けたいくなるような地域になるにはどうすれば良いか。中学生の考えを教えて欲しい。」という課題提供から学習は展開された。

◇授業の流れ

1時…長野市役所職員の方のお話を聞き、単元の見通しを持つ。 【導入】

単元の学習課題例「長野市が今後も住み続けられるようなまちにしていくにはどうすればよいのだろうか？」

2時…長野市ってどんな地域なのだろう？ 【地域的特色・課題をとらえる】

これまでの学習経験を基に、「自然環境」「人口」「生活・文化」「産業」「開発」「つながり」等の視点から分担して、長野市がどのような地域なのか調査した。調査はジグソー学習の形式で展開し、調査内容はクラウド上のシートに各自アップロードすることで、情報の共有を図った。

産業		人口・文化		歴史開発		自然環境	
担当		担当		担当		担当	
北陸新幹線が開通してから外国人宿泊数が急増！近年観光業が発達している。	平成26年から27年で製造品出荷額等と粗付加価値額が急増。川上村以外では、農業の少子高齢化が進んでいる	・現在の人口は約37万人 ・年少や生産年齢人口は減少、老年人口は増加 ・人口ピラミッドは富士山型からつば型に ・人口の多い地域は増加傾向、人口の少ない地域は減少傾向 ・鬼無里、戸隠→伝統芸能	・松代駅→利用人口が減少してなくなった。 ・茶臼山の地すべり→茶臼山恐竜公園、近辺には動物園。 ・地附山地すべり跡地の善光寺ロープウェイ→今はない。 ・長野市中央通り→整備事業 ビックハット→エムウェーブ →南長野運動公園→五輪大橋	長野市の平均気温は11度 ⇒比較的涼しい 年降水量932mm ⇒中部地方の他の地域に比べると少ない アップルラインを中心に台風19号の被害を受けた			
①班で調べてわかったことを説明し合う							
②班で対話をして学習課題の解を導きだそう							
まとめ							
涼しく降水量の少ない気候を生かし、農業が盛んだが、都市から離れた地域では少子高齢化が進んでいる。							

家庭学習…自分の両親や祖父母、地域の方へ市の課題や現状について聞き取り調査をする。 【社会的事象を調べまとめる】

※生徒聞き取りより（一部）

- ・新しく家を建てる場所がない。昔から住んでいる人が年をとってきている。新しい家が少ないので、子供も少なく、空き家が多い。（中心部）
- ・若者が出て行って高齢者が多い。人口減→バス減→人口減 人口減→畑減、少子高齢化で若い人が少ない上に、病院やスーパーがほぼない。戸隠は診療所1軒と小店舗2つ。（山間地）

3時…調査結果を説明し合い対話することで、長野市の地域的特色と課題を明らかにする。 【地域的特色・課題をとらえる】

→学習課題「山間地や中心部で人口が減ったり、少子高齢化が進んだりしているのはなぜだろう？」 【社会的事象について多面的多角的考察する】

4時…地域で起きている課題とその要因を考察し、まとめる。

【課題解決に向けて選択・判断する，思考判断したことを説明しそれらをもとに議論する】

※市役所職員の方に生徒の考えを伝え、意見をもらう（メール）。

※生徒の感想

若者が出て行く→人口が減→不便になるという悪循環が生まれていた…自分は何不自由なく暮らせているから本当に危機感がなかった。正直こういう人がいるから問題が解決しないんだなと思った。

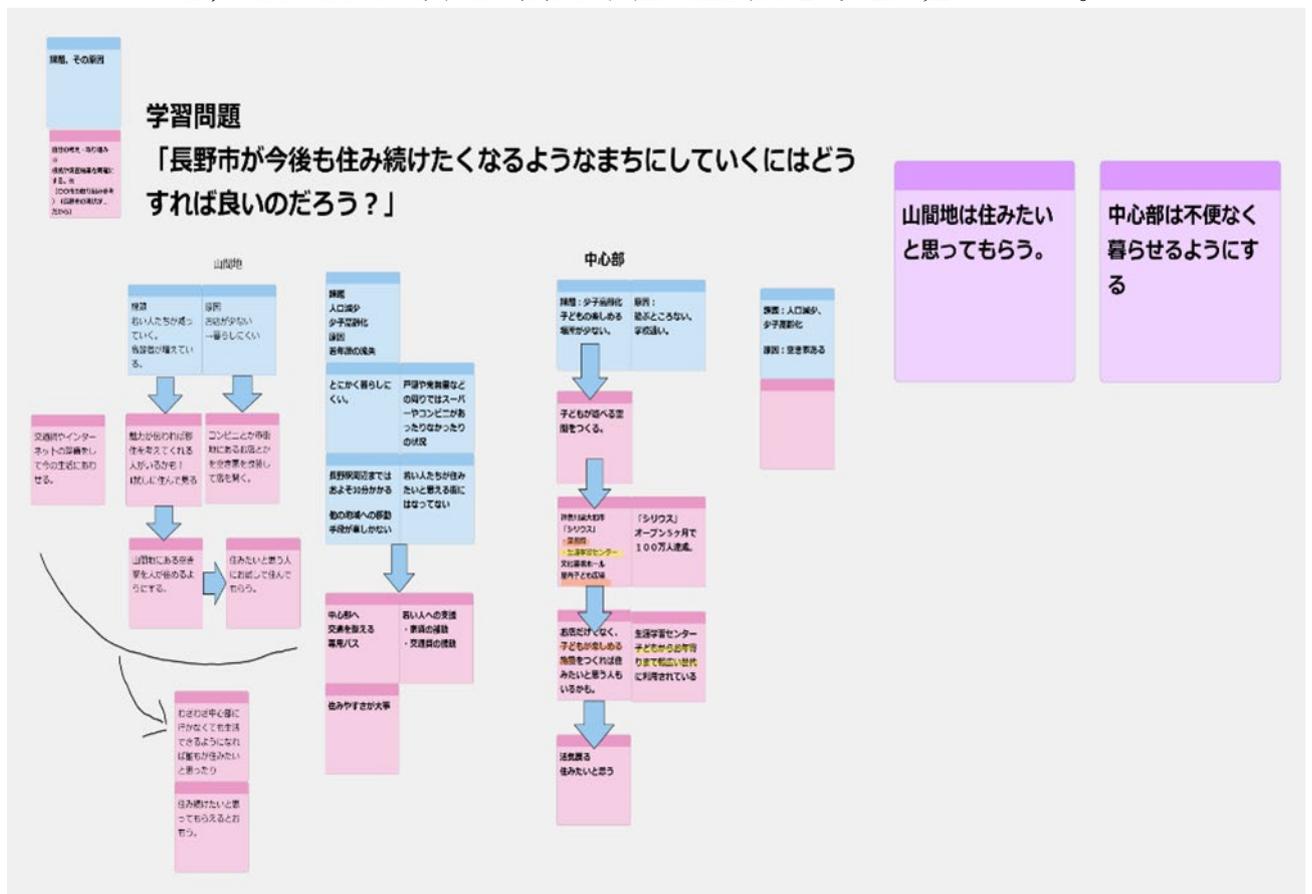
5時…「長野市が今後も住み続けられるようなまちにしていけるにはどうすれば良いのだろう？」について、これまでの学習をもとに、自分の考えをまとめる。

※他地域の事例も調べて、

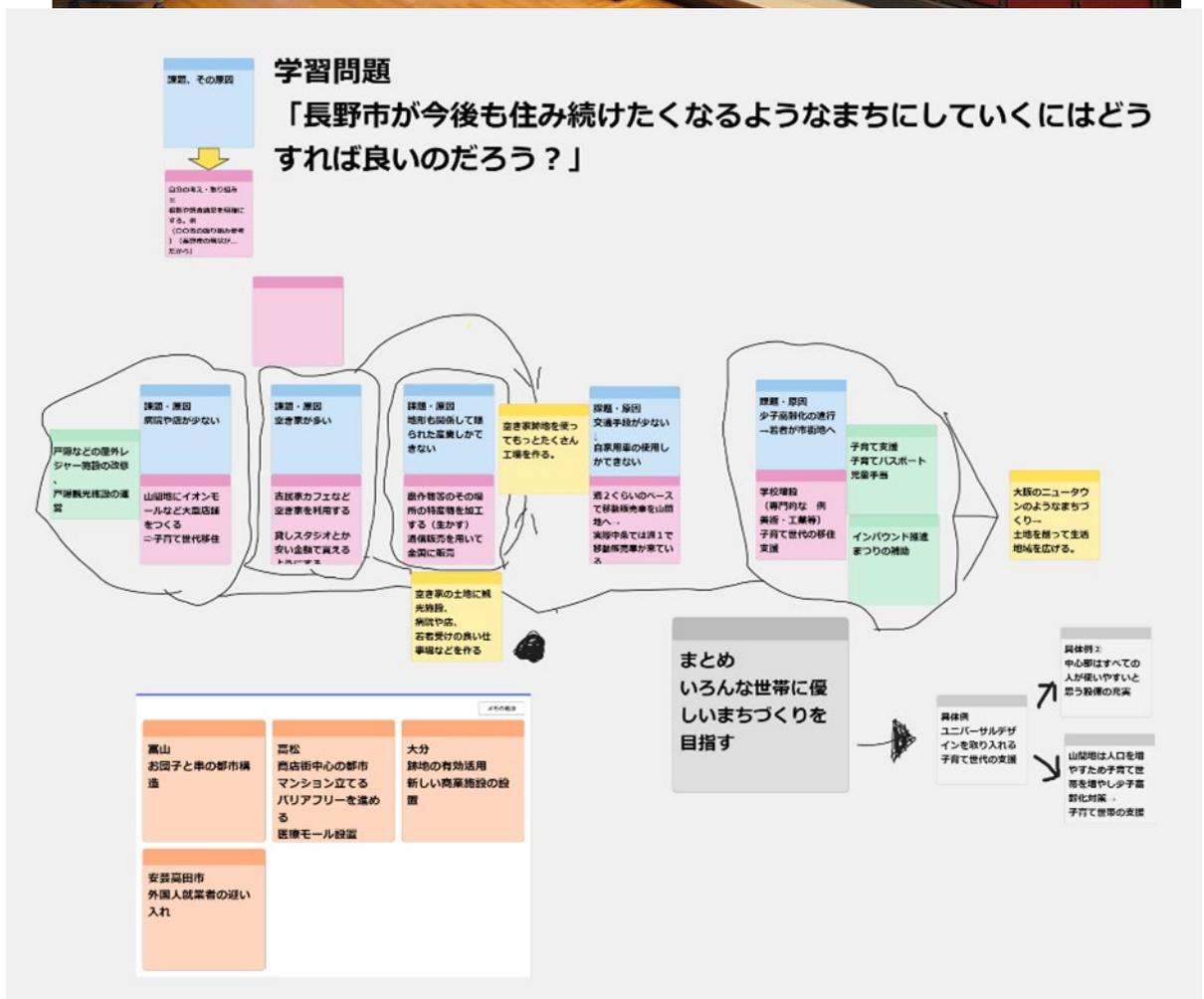
長野市で活用できないか等を検討した。

6時…考えたことを説明し合い、対話しながら、持続可能なまちづくりの在り方について検討する。

※以下のデータは山間地と中心部は「人口減少」や「少子高齢化」という課題が同じでも、原因が違うことから、それぞれに対する対策や取組が必要だと考えた班のシート。



7時…市役所職員の方へ今後の長野市の在り方を伝え、意見をもらい、単元の学びを振り返る。



※お年寄りへのインタビュー内容（まちに障壁が多くて生活しにくい等）から、若者だけでなく、様々な世代や外国人も過ごしやすくなる取組が必要だと考えた班のシート。

[市役所の担当者からのコメント]

- ・市街地と山間地や若者や高齢者等立場を明確にして取組を考えたのが素晴らしい。
- ・市役所では、限られた予算（大切な税金）を必要なところやより効果がありそうなところに使うように考えている。
- ・長野市の魅力ってなんだろう？どうすれば人々の心に届くかも一緒に考えたい。

#### ◇学習を終えての生徒のまとめ・感想

- ・調べてみると、今でも市で支援とか取り組んでいるらしいけど、住んでいて全く実感がなかった。市全体を巻き込んでいかないとな人を集めるのは難しいと思った。今ここに住んでいる人間として、高齢者の意見を聞くことでこれからの課題を知り、解決していく機会になったと思う。
- ・子育てしやすいように支援だけじゃなくて、空間を作った方がいいと思った。山間部は仕事やお店、交通網を同時に増やすべきだと思った。（山間部は車がないと生活ができない）
- ・地域独特の何かで観光客を呼び込み、住みやすい地域だとアピールする事が大切だと思った。
- ・身近に感じる不便さとか職場体験の経験とか、データとかを活用してみんなで話し合っってすごく良い案ができた。経験って大事。個人的にはインフラの整備，SNS 活用が良いと思う。若者にも老人にも誰にとっても良いまちって難しい…

#### ◇市役所の担当者との対話をしての感想

- ・長野市を住みよくするための方法を見た時に、いくつかの視点でみるができると思う。例えば、なにか施設を作るとき、お金がかかるけどそれに見合った利益があるのか。誰がその施設を運営するのか。人は来るのか。場所はそこでいいのか。何か似たような施設はないのか等、いろいろな面からよしあしを考えなければいけない。でも長野市をよくするためには何か行動をしなくちゃいけないし、ハイリスクハイリターンな面もあるから、頭をフル回転させなきゃいけないと思った。
  - ・今まで長野市で何気なく暮らしてきて、少しでも不便だなと思うところはあったけど、特に考えずぼーっと過ごしていた。けれど、この单元になってから、長野市の現状や課題が見えてきて、・・・自分たちが住んでいるところは住民全員で意見を出し合ってくるものだと思った。・・・今長野市が行っている制度や町おこしを自分はよく知らない。もっと調べて、どう役立っているのかをもっと知りたい。できるなら参加してみて、少しでも貢献できたらいいと思った。長野には隠れた魅力もあるだろうから、どんどん見つけて、いつかは超有名な市にしたい。今日はとても楽しかった。
- 長野市の今後について、生徒は单元後半になるにつれて、様々な面や立場を踏まえて多面的多角的な視点で考えられるようになり、「住民が参加することの良さ」や「自分も参加・貢献したい」等、公民的分野の政治の学習にもつながる考えをもつことができたといえる。
- 社会科の学習の系統性や総合的な学習の時間での学びの関連を教師が意識して授業展開を構想したこと、地域の大人へのインタビューや市役所職員との出会いがあったことが、生徒の多面的・多角的な思考を引き出すきっかけとなったと考えられる。

#### 学習活動④ 「地方自治とわたしたち」

- これまで総合的な学習の時間で展開してきた地域と関わり合いながら自己の生き方

を見つめ直す，一人一人が「問い」をもって体験活動を行うといった学びの成果を教科学習にどのように結びつけていくかという観点で授業を構想した。

- 「地方自治と私たち」の学習は，地方自治の仕組みを理解し，地域が抱える課題に向けて積極的に関わり，課題の解決に向けて自分の考えをもったり行動できたりすることができる姿を目指していることから，長野市が抱える課題の一つである「台風19号，千曲川の氾濫による被災からの復興」を取り上げた。
- 総合的な学習の時間で展開してきた地域の自然災害からの復興や地域の防災・減災への取組への関わりや学びを生かし，地域の住民自治協議会の人々と地域が抱えている課題解決に向けて協働で学びを展開することは，生徒が地域の課題に切実感をもち，自分事として課題に向き合い，追究する学びになると考えた。

#### ○ 学習展開

地域の住民自治協議会から，学校に対して，「避難所開設や運営の具体(施設利用方法・必要物品・運営のシミュレーション等)を学校と相談して，つくっていきたい。」という申し出があったことを「地方自治と私たち」の学習の第3時で伝えたと，これまでの総合的な学習の時間での成果を反映したいと声上がり，学習に対する意欲がみられたことから，第4時から第6時までの「政治参加」の具体的な課題解決が必要な学習課題として，「防災」に視点を当てて学習を展開することとした。

#### ◇授業の流れ

1時…住民自治と団体自治(地方自治はどのような考えに基づいて行われているのか。

「学習課題：長野市や地域で持続可能な社会を実現するために私たちができることは何だろうか？」

環境や人口減少問題への対策などに加えて，防災の視点が生徒の中から出され総合的な学習の時間の学びの影響が大きいと感じた。

2 社会チャネル 投稿 ファイル メモ ホワイトボード1 ホワイトボード2 ホワイトボード3 ホワイトボード4

2022/11/22 11:52 編集済み  
鴨 地産地消をする。  
自分たちが住んでいる地域のことをよく知る。

2022/11/22 11:52  
掛 環境に配慮した生活をする(ごみの分別、プラスチック削減など)  
地産地消をする。  
地域の交流に積極的に参加する。

2022/11/22 11:53  
山 限りのある資源を大切に使う。  
過去の教訓から学び、今後につなげる。(災害)  
環境に配慮した手段や商品を選ぶ。  
昔からの伝統や文化を継承する。  
今抱えている課題についてもっとよく知る。

簡易表示

2022/11/22 11:54  
櫻 生活の中で地球に優しい行動を当たり前にしていく。(マイバックとか自転車、電車を使うとか)

2022/11/22 11:54  
山 環境保護、無駄を減らす、地産地消

2022/11/22 11:54  
松 節電などをして資源を大切に扱う。  
地域の行事に参加したりして、伝統文化を受け継ぐ、伝える。  
残さず食べる。

2時…地方自治の仕組みと財源

3時…地方自治の課題(地方自治にはどのような課題があるのか。環境、人権、伝統、防災、情報技術など、持続可能な社会の視点から考える。)

4時…政治参加(自治協議会の紹介)

「学習課題:防災の視点から、地域のために自分たちができることを考えよう。」

・生徒の学習カードに、防災・安全の視点から自分たちができることを考えていきたいという提案があったことから、地域から上がった声として、地域の住民自治協議会が作成する「避難所運営マニュアル」について、学校側の意見を参考に作成を進めたいという申し出があることを紹介した。

・地域の自治協議会は長野市が作成している「避難所開設・運営マニュアル」に基づき、より具体的な施設の使用方法について、検討を進めている状態にあり、地域のニーズと、生徒たちができそうなことが繋がり、生徒たちは課題解決へ向けて意欲的に学習に取り組むこととなった。

5時…避難所運営・開設マニュアルに自分たちの意見を伝えよう。

住民自治協議会の方々が授業に参加し、生徒と協働で実際に学校の施設をどう開放するかについて、避難所開設・運営マニュアルをもとに、支援物資置場、仮設トイレなど、想定される使用例を考え話し合った。

出された意見は、校舎配置図に「1階の会議室はお年寄りが避難、生活するスペースにする。→階段がなく、保健室にも近いため。」というように付箋に記入して貼り付けた。



生徒の感想に、「自分たちが普段過ごしているからこそその気づきがあった。」

「修学旅行のときの学びをいかしながら、どんな工夫ができるのかを考えることができた。」「色々な立場になって考えると、視野も広がった。」とあるように、お年寄りや妊婦、外国人などの立場を考えながら、校舎の使用例を考えることができた。

また、動線や誘導の係が大切であるという、実際に東日本大震災で避難所運営を経験した人の声を思い出しながら、友達と対話をする場面が見られた。生徒の考えた根拠、振り返りからは、多角的な視点で考えることができたことがうかがえる。

6時…自分たちが考えた避難所運営・開設マニュアルについて、効率と公正の視点から見直す。



避難所運営は行政や地域住民が主体で行うことから、学校を避難所として使う際に工夫できることや課題となりそうなことは生徒の方が詳しいとはいえ、生徒も手伝えることがないかという視点で運営のシミュレーションを行った。

具体的にはマニュアルに基づいて、生活環境、健康福祉、物資食事など、小グループに分かれ、効率・公正の視点で見直した。

7時…学習のまとめ

※生徒の感想

- ・その施設に関わる立場の人たちがみんなで事前に話し合っておく必要があると思った。
- ・上に立つ人だけでなく、住んでいる人全員が「協力しよう」という意思をもって生活すること。
- ・高齢者、外国人、小さな子どもがいる家庭など、様々な立場になって物事を考えていくこと。
- ・その過程のどこかに自分が関わり、身近に感じたり考えたりすることが大切だと思う。

まとめでは、避難所運営についての生徒たちが提案した内容から、持続可能な社会の実現に向けた振り返りを行った。生徒が切実感を持って学習に取り組んだきっかけは、生徒たちの学習に対する関心と地域住民が抱えている課題とが一致したことから、学びの必然性が生まれたことであつたといえる。

この授業から、授業設計における地域の方々との事前の話し合いの大切さ、教師も生徒も互いに様々な立場にたつて物事を考えることの大切さ、当事者意識をもつことの大切さを改めて気付かされた。

## 成果

(生徒の変容等)

○ 「地域の在り方」の授業から

### 授業を終えての生徒の感想

<p>・長野市についてこんなに深く考えるのは初めてだった。知っているようで知らない長野の魅力をも再確認したいと思う。長野のるるふパンフレットも見てみたいと思った。今でも新しいカフェや店が増えているから、それらも発信できると、進化につながるのでと思う。</p> <p>・学年で考えることによつて、自分では思いつかないようなアイデアをたくさん聞くことができた。家族インタビューもして様々な目線からの長野市が浮かび上がってきたと思う。市外や県外、外国人の方にも長野市の印象を聞いてみたい。イベントがあるなら友達を誘って行ってみたい。</p>	<p>身近な問題があって、それを解決することはできなくても、どこまで改善できるか、考えるのも大切だと思った。(全部解決は無理。)</p> <p>その改善も、何の知識もなしに行うのは無理で、自分、または他の人の経験、周りはどういうことをしているのか、現状は?とか、色々な事を同時に考えていかないと行けなくて、普段何気なく便利に暮らしてると便利さってすごいと感じた。</p> <p>7人7人の人と話してると、「これいいじゃない?」って言われ、「これをさらにこうすると、と良くなる?」とか、どんどん意見がぶくらんでいて、話し合い良さを改めて実感した。利益とか考えると難しい……!</p>
<p>調べていくと住んでいる地域も知らないことばかりだったので、関連していることに先ずから自信を持つていこうと言わねばならない。結局二つの意見がいいのか? 悩んで思いつきもあつたり、話し合っていくと考えが180°変わるのも面白くてすごいと思ったので、大切にしていきたいです。</p>	<p>てつかくみたくて、最初から最後まで頭がこんがらがっていました。でも、自分の住んでいる地域について考えられたので良かったです。</p> <p>今後追究したいことは、長野だけの魅力とは別に、この県にもあるようなことをアピールして、長野にしかないものをアピールしたほうが来たくていいと思うからです。</p>
<p>市の未来を動かす、すごい大変だと思った……(というより、難しい……)。</p> <p>それ、この疑問に思ふのが……山間地は都会より不便だから移住する人が少ない。でも、かといって山間地をさらに発展させると、必ずどこかの人口と木々魅力と自然の豊かさが減る……本当にどうすればいいんでしょう?</p>	<p>ずっと住んでいる長野市でも、知らない現状や課題があつてびっくりした。</p> <p>これからは、自分達が長野市を作っていく番なので、今後も市への意見やアイデアを発信していきたいなと思った。</p>

ここに掲載した感想は一部であるが、概ね同様の感想を示している。日頃当たり前と感じ生活している地域ではあるが、改めて、地域を調査し課題を見だし解決していこうとなると、「知らないことだらけ」ということに気付かされた生徒たちであった。

初年度の研究では、総合的な学習の時間に軸足を置きながら、社会科における主権者教育の在り方を探ったが、事象に関心は向くが、徹底的に追究するという姿勢までは到達することはできなかったと考えている。

2年度の授業での活動内容を見ていくと、総合的な学習の時間として行った「長野市の魅力を発信」する体験学習では、観光パンフレットの的な内容での地域理解でとどまっていたものが、夏休みの課題として地域調査をしたところ、改めて知らないことばかりという生徒自身の気づきが、地域を詳しく知りたいという探究心の原動力となり、その後の学習の意欲につながったと上記の感想からもうかがえる。





学校を避難所として運用する際の配慮することという身近な地域が抱えている課題を、地域住民と協働で追究したことで、地域社会における住民の福祉は、住民の自発的努力によって実現するものであることを、実感をもって理解することができたといえる。

工夫の点にもなるが、学習展開の中で、防災に視点を向けた生徒が出てきたことから本授業は大きく舵を切っていくことを考えると、「総合的な学習の時間」での学んだことや感じてきたことが、社会科の学びに効果的に生徒自身の中で位置付けられ、生徒の追究のエネルギーになったと考えられる。

#### (取組の工夫)

- 2年目の本年度は、総合的な学習の時間は、社会科で学んだ内容を出力する場であり、その出力した際の課題を再度追究し解決策を極めていくという学習スタイルを取ることで、生徒にとっての学びの必然性もしくは切実感を創出させようと試みた。地理的分野の学びでは、総合的な学習の時間で学んでいるので、地域のことについてある程度「知っている」と思っていた内容について、「知らなかった」「初めて気がついた」という知的衝撃となり、学びに向かう原動力となっていたと考えられる。
- 授業設計については、カリキュラムそのものを大きく変えるのではなく、教師が授業を展開していく上で、学習内容の系統性と他教科等との連携を意識した設計、運用したことが、生徒の学びの必然性を引き出すことにつながったと考えられる。
- どの授業も、教室で行う活動・家庭学習として行う内容・地域社会との関連性の中で展開する内容と、学習の進度または内容に応じて多チャンネルな学習活動を設定したことが、生徒の学びの自由度を上げて、主体的・対話的な学びを展開できた一因となったと考えている。
- 外部の人材活用について、web 会議システムを活用したり、教師が聞き取りをしてデータ化したものを生徒に提示したり、対面で生徒と協議したりと、生徒の学びの要求に臨機応変に対応した授業運営も、生徒がスムーズに学習が進んでいるかのように感じさせる大きな要因であったといえる。
- ICT の活用について、常に生徒が情報を共有するツールとして学習を進めていくことで、学び合いの深化を図ったことが、学習の意欲化につながったと考えられる。

#### (他地域でも参考となると考えられる点)

- 本校で言えば「東日本台風災害からの地域復興」であるが、全国それぞれの地域で独自の課題があるので、その課題と社会科の学習内容とを関連付けてカリキュラムを編成し学習方法を工夫していくこと。
- 「防災」「復興」「地域振興」「SDG s の実現」とある程度明確な視点を持って、課題追究の学習を設計することが教科横断的に教育活動を見直すきっかけとなるといえる。
- 社会科学習の充実を中心に、総合的な学習の時間や道徳、理科、英語、国語等の学習内容との関連を整理し、より効果的・合理的なカリキュラム編成を行っていくこと。
- 1人1台端末の利用により、生徒の学習活動の幅が広がる。端末は、より多くの人

や遠い人とつながる（つながりやすくなる）ツールとしても積極的に活用することができる。

## 課題

- カリキュラム・マネジメントの視点から社会科と総合的な学習の位置付けの再考。  
授業設計において地域が抱える課題解決に意識が傾斜し、総合的な学習の時間が主で社会科本来の学びが従となってしまいがちだったので、カリキュラム・マネジメントとして社会科の系統性の視点から、教育課程の編成並びに教科横断的な授業設計の在り方を再検討する必要がある。
  
- 関係諸機関との連携  
比較的外部機関や地域人材を活用した学習を展開したが、行政機関や議会等との協働学習の充実が主権者教育では必要なことから、より幅広く実社会の関係機関等との連携を限られた時間の中でどのように展開すべきかを検討していく必要がある。

地域社会への思い

# 実社会との接点

持続可能な社会をつくる・生きる

## 総合的な学習の時間

第3学年

元気だ長野!マイプロジェクト

東北修学旅行

第2学年

長野市の魅力を発見・発信

第1学年

キセキの味噌復活プロジェクト

身近な地域の歴史「善光寺ウオーク」

### 「男女共同参画社会」【第3学年公民的分野】

「人権と共生社会」の学習において、生徒の身近な生活に潜むジェンダー問題を取りあげ追究させることで、現実社会の課題や生徒自らが課題解決に向けて行動することの重要性に気付く。

### 「地方自治と私たち」【第3学年公民的分野】

地方自治の基本的な考え方・仕組み・住民の権利や義務を理解するとともに、住民自治協議会と協働で、「地域の防災」について地域が抱える課題の解決に向けて追究し、地域に防災計画等を提案し、一人一人が地域を支える意識を醸成する。

### 「現代社会の特色と私たち」【第3学年公民的分野】

思考ツールを使って、環境エネルギー、人口、伝統文化、防災・安全、情報環境、エネルギーという持続可能な社会のために解決すべき視点を整理する。  
社会の課題に関心をもち、積極的に社会参画することが大切であることに気付く。

### 「地域の在り方」【第2学年地理的分野】

「長野市第五次総合計画」などを活用しながら、市の職員と協働で地域の実態を知ることを通して地域の課題を見だし、SDGs11のテーマ「住み続けられるまちづくり」の観点から、課題解決の方策を探り、主権者として地域に関わる意識を醸成する。

### 「日本の諸地域」【第2学年地理的分野】

web会議システム等を活用し学習テーマに即して各地域の人々と交流したり、ネットを活用して地域の実態を知る資料を探す活動を通して、各地域の課題を見だし、解決策を探究する学びを展開することで、主権者として地域に関わる意識を醸成する。

### 「地域調査の手法」【第2学年地理的分野】

地域の魅力について「自然、歴史、産業」の観点で調べたり、地域の実態について「災害、高齢化、開発の差」の観点から調べたりすることを通して、自分たちが生活する地域の課題を見いだす。

社会科の学習としての系統

# 地理的分野における主権者教育の試みに係わる構造図

主権者教育で育成を目指す資質・能力

## 知識・技能

- ・ 現実社会の諸課題に関する現状や制度及び概念についての理解
- ・ 調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能

## 思考力・判断力・表現力

- ・ 現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
- ・ 現実社会の諸課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって主張するなどして合意を形成する力

## 学びに向かう力・人間性等

- ・ 自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力

## 『地域調査の手法』

- 夏休みを活用して地域調査
- 魅力：自然、歴史、産業
- 課題：災害、高齢化、開発の差

## 『日本の諸地域』

- ・ 北海道地方…自然環境に合わせた暮らし
- ・ 近畿地方…開発とまちづくり
- ・ 中部地方…産業と自然・社会条件
- ・ 東北地方…変容する文化との共存
- ・ 中国四国地方…人口の偏在による問題
- ・ 関東地方…つながりによる地域の変化
- ・ 九州地方…自然災害とのたたかい

## 『地域の在り方』

- SDGs11：住み続けられるまちづくりを  
「長野市が今後も住み続けられる地域になるためにはどうすれば良いのだろうか？」
- ・ **長野市や他地域の総合計画の活用**
  - ・ **市役所職員との対話**

総合的な学習の時間等

身近な地域の歴史

過去から現代に至る歴史や文化のつながり

善光寺ウォーク

English Camp

留学生との交流で  
長野市の魅力を伝える  
(自然、歴史、人、観光等)

# 小単元「地方自治と私たち」の指導計画開発の構造図

